

令和4年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.156～157)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化)		
施策名	6-4 国際交流		
所管部	総務部	関係部	産業港湾部・生活環境部・教育部
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.45)</p> <p>海外との交流が活発で、多様な文化とふれあえる、国際性豊かなまちを目指します。 このため、姉妹都市との使節団の相互訪問などを通じた交流を進めるとともに、市民が外国人とふれあ う機会の創出や、本市に暮らす外国人の生活のサポートなどを行い、諸外国との相互理解の促進と国際 化の推進を図ります。</p>		
市民アンケート 指標	国際交流に関心がある市民の割合	基準値	目標値
		29.3%	基準値より増

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.156～157)

小施策 及び 指標	(1) 姉妹都市等との交流			基準値	目標値
	指標	ホストファミリーと通訳ボランティアの登録者数	ホストファミリー54世帯	60世帯	
			通訳ボランティア70人	100人	
	(2) 外国人が暮らしやすい環境づくり			基準値	目標値
	指標	在住外国人の日本語教室受講者数	17人	30人	

令和4年度 行政評価調書

■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化)					
施策名	6-4 国際交流					
所管部	総務部	関係部	産業港湾部・生活環境部・教育部			
市民アンケート 指標	国際交流に関心がある市民の割合		基準値	令和3年度	令和5年度	目標値
			29.3%	29.3%		基準値より増
市民アンケート 指標の推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指 標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	ホストファミリーと通訳ボランティアの登録者数	ホストファミリー54世帯 通訳ボランティア70人	55世帯 74人	△	60世帯 100人
	(2)	在住外国人の日本語教室受講者数	17人	16人	△	30人
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
総評及び今後の 具体的方針 ほか特記事項	<p>・国際交流に関心がある市民の割合は、姉妹都市交流が実施できていないにも関わらず、基準値から減少しなかった。引き続き各種の施策を進めることで国際交流への関心が増すよう取り組んでいく。</p> <p>・ホストファミリーも通訳ボランティアも、姉妹都市交流事業が実施される年に増加する傾向にあり、令和3年度は令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、姉妹都市交流事業が実施できなかったため、市民の国際交流に対する関心が高まらなかった。なお、HPでのホストファミリーと通訳ボランティアの募集は継続していく。</p> <p>・在住外国人の日本語教室への参加人数は、新型コロナウイルス感染症の影響で休講期間があったにも関わらず、昨年度と同数に留まっていることから一定のニーズがあると考えられるため、引き続き、日本語教室の実施、講師ボランティアの募集を行っていく。</p>					

■有識者会議による点検 (対象 非対象)

点検結果	
------	--

■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	C-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う	
上記特記事項	<p>○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。</p> <p>○国際交流事業については、引き続きオンラインでの交流会を開催するなど、コロナ禍においても実施可能な手法で事業を継続し、国際交流の意義や市の取組について周知を図ること。</p>			

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1) 姉妹都市等との交流

(第7次総合計画 基本計画 P.156)

指標	指標名		指標の基準年		基準値		目標値	
	ホストファミリーと通訳ボランティアの登録者数		平成30年		①ホストファミリー54世帯	②通訳ボランティア70人	60世帯 100人	
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		①55世帯 ②73人	55世帯 73人	55世帯 74人				
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)					
主な取組	<p>★ナホトカ市、ダニーデン市、ソウル特別市江西区との相互交流(総務部秘書課)</p> <p>○ホストファミリーや通訳ボランティアの拡充(総務部秘書課)</p> <p>○国際交流団体等の活動への支援(総務部秘書課、産業港湾部観光振興室、教育部生涯学習課ほか)</p>							
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 姉妹都市提携委員会交付金(00177)		② 440 千円		③ 総務部秘書課		
		④ 姉妹都市との相互交流による友好親善、市民に対して異文化に触れる機会の拡大を図る。						
		⑤ 新型コロナウイルス感染症による渡航制限のため交流事業を実施することが困難となり次年度に延期することとした。						
	2	① デジタルオンライン交流会の開催		② - 千円		③ 総務部秘書課		
		④ 新型コロナウイルスの収束が見通せない状況により渡航による交流が制限されるなか、ZOOMなどのデジタル技術を活用したオンラインによるワークショップ形式の交流会を開催する。(姉妹都市 ニュージーランド、ダニーデン市と開催)(姉妹都市提携委員会交付金の一部として実施)						
		⑤ 令和3年3月29日開催 オタゴ女子高校生徒28名、青園中学校生徒6名参加						
	3	① ホストファミリー等の募集		② 予算無し 千円		③ 総務部秘書課		
		④ 姉妹都市交流等との交流の際の本市における受入体制の充実のため、ホストファミリーや通訳ボランティアなどの登録を促す。						
		⑤ HPでホストファミリー及び通訳(翻訳)ボランティアを募集した。						
	4	① ユネスコ英語祭		② - 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 小樽ユネスコ協会によるユネスコ英語祭の開催を支援する。						
		⑤ 新型コロナウイルス感染症により実施することが困難となり、延期とした。						
5	① 小樽雪あかりの路における海外ボランティア受入れ		② - 千円		③ 産業港湾部観光振興室			
	④ 韓国・台湾等の海外ボランティアと市民が触れ合う機会を設ける。							
	⑤ 小樽雪あかりの路では、海外ボランティアが会場オブジェの設営・維持管理等に国内ボランティアと交流しながら従事するかたわら、市内小・中学校に赴き、児童・生徒との交流活動を行っている。令和4年2月の開催は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となった。							
指標推移の要因等	ホストファミリーの登録者は昨年度と同数で、通訳ボランティアの登録者は微増となった。昨年度から増加しなかった要因は、ホストファミリーも通訳ボランティアも、姉妹都市交流事業が実施される際に増加するが、令和3年度は令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、姉妹都市交流事業が実施できなかったため、市民の国際交流に対する関心が高まらなかったことが要因として考えられる。							
令和4年度の取組状況	< 指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等 > 令和4年度は、市内の中学校と姉妹都市をZOOMなどで繋ぎ、オンラインによる交流を実施するなど、令和3年度の取組を継続して実施する。							
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	< 指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針 >							
	1	<p>1: 各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2: 予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・新型コロナウイルス感染症が収束し、国家間の往来が従来通りに可能となれば、姉妹都市交流事業が実施できる。コロナ後を見越して、HPでのホストファミリーと通訳ボランティアの募集をはじめとする事業を継続していく。</p>						

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)外国人が暮らしやすい環境づくり

(第7次総合計画 基本計画 P.157)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
		在住外国人の日本語教室受講者数		平成30年		17人	30人
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
			20人	16人	16人		
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)				
主な取組	<p>★本市に居住する外国人への言語学習や日本文化の理解促進などのサポート(総務部秘書課ほか)</p> <p>○本市に居住する外国人への多言語による情報提供や相談窓口開設の検討(総務部広報広聴課、産業港湾部商業労政課、生活環境部戸籍住民課ほか)</p> <p>○外国人の多様な文化の理解に向けた市民への啓発(総務部秘書課ほか)</p> <p>○イングリッシュキャンプ等、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる国際理解教育の充実(教育部学校教育支援室)【共1-2学校教育】</p>						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 交流推進費(00176)		② 80 千円		③ 総務部秘書課	
		④ ボランティア講師の協力を得て日本語教室を開催する。また、在住外国人に日本文化を体験する機会を設け、小樽文化団体協議会及び小樽ユネスコ協会との共催で、日本文化体験会を開催する。					
	⑤ 日本語教室 : 前期15回(うち5回休講)・後期15回(うち5回休講)、令和3年度参加者8か国16名 日本文化体験会 : 新型コロナウイルス感染症の影響により中止						
	2	① ホームページの多言語対応		② - 千円		③ 総務部広報広聴課	
		④ 外国人向けの情報発信のために、HPに自動翻訳する機能を付加している					
	⑤ 対応言語 英語、韓国語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)						
	3	① 外国人労働者に対する労働相談窓口等の情報発信		② 予算なし 千円		③ 産業港湾部商業労政課	
		④ 厚生労働省発行の外国人労働者向けの労働相談窓口の紹介や労働基準関係法令等の周知リーフレットを配架している。					
	⑤ 令和元年度より、英語版、中国語版、ネパール語版、ベトナム語版、タガログ語版を市民ホールへ配架						
	4	① 英語版の転出届、委任状等の作成		② 予算なし 千円		③ 生活環境部戸籍住民課	
④ 日本語が書けない方でも手続きができるよう、英語版の転出届、委任状、転入届(記載例)を作成している。							
⑤ 英語版の転出届、委任状はホームページに掲載し、転入届の記載例を窓口に掲示している。							
5	① 外国人向けの情報をHPに掲載		② 予算なし 千円		③ 産業港湾部観光振興室		
	④ 外国人向けのHPに多言語で各種情報を掲載、情報を発信している。						
⑤ 災害時緊急時情報、夜間・休日等の急病時の対応についてなどを掲載							
6	① 「小樽イングリッシュキャンプ」関係経費(2296)(共1-2)		② 200 千円		③ 教育部学校教育支援室		
	④ 児童生徒が外国人との活動や宿泊生活、外国人観光客への観光案内など、「英語漬け」の時間を過ごすことで、生きた英語を学び、国際感覚を身に付ける。						
⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、Google Formsを活用した動画とクイズや音読によるコンテンツを作成し、夏休みの児童生徒に提供した。のべ942回の動画視聴があり、アンケート回答は116名であった。							
指標推移の要因等	在住外国人の日本語教室受講者数は、基準値よりも下回った。要因としては、1つに、教室への通学形式での実施であるため、新型コロナウイルス感染症の感染への懸念からの通学控えがあったことが考えられ、もう1つに、前期・後期の全30回のうち10回を休講としたことが影響したものと考えられる。						
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の実績を継続						
指標推移への対応方針(令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>						
	1	<p>1: 各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2: 予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・日本語教室については、新型コロナウイルス感染症の影響で、前・後期の全30回のうち10回の休講期間があったにもかかわらず、昨年度と同数に留まっていることから、一定のニーズがあると考えられるため、引き続き日本語教室の実施、講師ボランティアの募集を行っていく。</p> <p>なお、現段階では相談窓口開設については検討に至っていないが、各事業担当課の個別の工夫により、本市に居住する外国人への情報提供や手続きの平易化を実施しており、また、外国人からの相談があれば「北海道外国人相談センター」と連携して対応する。</p>					